

ビッグマン紙鉄砲

鈴木健二



新潮文庫

ビッグマン

新潮文庫



昭和五十八年七月十五日 印刷
昭和五十八年七月二十五日 発行

著者 鈴木 健二

発行者 佐藤 亮一

発行所 株式会社 新潮社

郵便番号 一六二

東京都新宿区矢来町七一

電話 業務部(〇三)二六六一五一一
編集部(〇三)二六六一五四四〇

振替東京四一八〇八番

定価はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛ご送付
ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

◎ 印刷・二光印刷株式会社 製本・加藤製本株式会社

© Kenji Suzuki 1983 Printed in Japan

ISBN4-10-127902-0 C0195

新 潮 文 庫

ビッグマン紙鉄砲

鈴木健二 著

新 潮 社 版

3077

ビッグマン紙鉄砲・目次

I こんにちは旦那さん

身ゼニを切れ……………	三
飲み代とは……………	一五
他人を羨むな……………	一七
“能力”の差……………	一九
専門的知識を持て……………	二三
大切な“朝”……………	二四
才能プラス出世……………	二六
言葉の断絶……………	二八
たった一人の集団……………	三
小さなのぞき穴……………	三三
話せない何かを持て……………	三五
ハーフメイド情報……………	三七

若者よ読書せよ……………	三九
ある女性に学んだ事……………	四二
ボーナスの不思議……………	四四
雑事有用……………	四六
夫婦喧嘩の不思議……………	四九
いただき、白人女性……………	五一
産褥での哀歓……………	五三
会話がたりない……………	五五
すべて型通り……………	五八
機転をきかせろ……………	六〇
殴ることの意味……………	六三
一発五十万円はザラ……………	六四
ミニと行儀……………	六六
二枚目犯人……………	六八

一つじゃイヤヨン……………	七〇
脱マイクロフォン……………	七三
師団長の馬車……………	七四
馬さしそば……………	七六
馬鹿のバの字は……………	七八
ひとりのジnkス……………	八〇
明瞭な発音……………	八二
毒を食らわば……………	八四
汝、姦淫せよ……………	八六
味を作れ……………	八八
オナラで名演奏……………	九〇
尻押し社会……………	九三

Ⅱ ビッグマン紙鉄砲

中抜けのなか……………	九七
西南の役異聞……………	九九
勝てば官軍……………	一〇二
虚像巨象時代……………	一〇四
思い出を作ろう……………	一〇七
味覚吸収地方……………	一〇九
不健康法……………	一一一
反奇跡時代……………	一二三
二流人間……………	一二六
おんな北と南……………	一二八
地名傷……………	一三〇
転勤節……………	一三三

おてもやん	一三五
切り干し刈り唄	一二七
苦勞だ節	一二九
琵琶樂	一三二
逆世の歌	一三四
きんきらきん	一三六
あいさつ	一三八
不器用大国	一四二
脇の下話術	一四三
新発売!	一四五
レタージャック	一四八
テレフォンジャック	一五〇
押しかけジャック	一五二
テレビジャック	一五四

どうも	一五七
ダンプの涙	一五九
中立馬鹿	一六三
わたくし	一六四
聞き人間	一六六
對話	一六八
子孝行	一七二
公害の口害	一七三
ミニとマキシ	一七五
きもの	一七七
呑ん平	一七九
大食有芸	一八三
震度10	一八四
考える人	一八六

三人の友……………	一八
都会人に問う……………	一九
人間対人間……………	一九
古知復活……………	一九
朝に見ること……………	一九
マイナス時代人……………	一九
主婦多忙……………	二〇
忙中忙あり……………	二〇
病氣と幸福……………	二四

分かちあう心……………	二五
家庭文化とは……………	二七
死からの出発……………	二九
予測なき政治……………	三一
同県人意識……………	二三
静かなる日々を……………	二四
別れ……………	二六
あとがき……………	二九

ビッグマン紙鉄砲

I
こんにちは旦那さん



身ゼニを切れ

およそこの世の中で、サラリーマンほど自分の金を投資しない人間はない。亭主に先立たれたカミサンか、泣きの涙で出ささやかな店にたつて資本かかかり、毎日の仕入れにも金かいるのである。ところか、サラリーマンときたひには、金はすへていたたくもの、使うものはなんでも会社かくれるもの、と決めこんで少しも疑わない。

サラリーマンの一年間の本の購読量か、単行本三冊、週刊誌十七冊、雑誌五冊という平均からみても、彼らかいかに自己投資にケチであるかわかる。だから、学校を優秀な成績で出て来て、将来は世の中を背負って立つほとんどの人物になるのではないかと思われる人間も、いつの間にか一般大衆の中にまきれ込んでしまつて、やかてのことに、俺かこの世でやった仕事は、俺によく似た子供を二人作つたたけたなあ、と慨嘆するようになってしまふのである。

たか、いくら文句を言つても世の中の仕組みはすくにはよくなるとすれば、自分自身で平凡にならないようにしなくてはならない。その第一は、あなたの周囲の連中と違つた仕

事をする事である。彼らか自分の仕事のために金を使わないなら、あなたはなんとかして自前の金を使い、また、使っているように見せかける事である。

となん点でもいいから、あいつには頭か上からねえというものを、一つでも作っておくことである。

もしあなたが仮に新入社員であつたとしても、無理して本屋に沢山本を持たせて来る事である。それは周囲の人か

「おや、あいつは見かけによらず読書家なんだな」

と思わせるほどの量である。

もちろんあなたのフトコロは苦しい、しかし、苦しみかなくては人生は無為に過ぎてしまふ。とは言つても、本の借金に押し潰^{つぶ}されてしまったのではなにもならない。

ツケを取りに来た本屋には、「うへ、随分買い込んだな」と、月給のほとんどを注ぎ込んでいるように回りの人には見せかけながら、一方ではゆうゆうと一カ月を暮らせるだけの金を用意しておかなくてはいけない。そのためには自由に使える金を平均十万円だけ貯める事である。十万円あればハノタリの資本としてはまあまあである。

カネかカネを生む世の中である。サラリーマンは不平のかたまりみたいなものだが、その不平のものは、せんしつめれば金かないことの場合が多い。みみっちい話をする連中の間であつた一人金持ちの意識でいられることは楽しいものである。

日常、ポンと使えるカネが十万円。この裏金かあなたを知らず知らずのうちに、ちつとはマシなサラリーマンに押し上げて行くのである。まっとうに働く人間にはそんなに大きな能力差があるものではない。しかしほんの紙一重か人生を楽しくもつまらなくもするのである。

飲み代しろとは

その昔、一流ところの遊廓ゆうかくの女たちは、涙くましいほどの献身ふりを示したそうである。ところか、近ごろのバーのホステスときたら、寝てるのと坐っているとの違い以上に、そのサービスに差があり過ぎ、お粗末ふりは目に余る。東京が一番ひどい。

遊ぶなら関西の方がまたましてある。

坐って飲む以外に能はなさそうなホステスたちだが、あれでなかなか商売となるとむずかしいものなのである。

自分の特定の客もなく、いわゆるヘルプだけでは暮らしていけない。歩合が入らないからである。たか、客をもてば、立て替え払いをするだけの資本かないとうまくいかない。彼女らの了見一つで、バーの飲み代しろと高くも安くもなる。